

中国の五大連池火山群

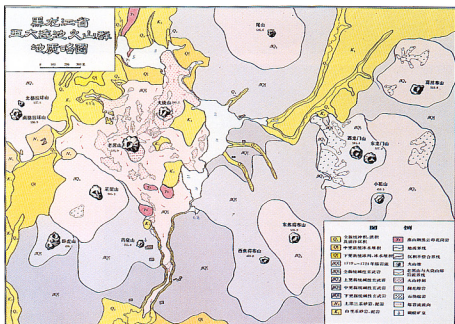


1. 五大連池地域の景観。手前の溶岩台地は肥沃な土壤に被われ、五大連池の灌概用水を用いて、豆や麦が栽培されている。1990年8月撮影。

五大連池（Wudalianchi）火山群は、中国東北部の黒竜江省にある第四紀の単成火山群である。省都ハルビンの北約300kmに位置するこの火山群は、徳都（Dedu）県内にあり、一帯は小興安嶺西側の平野部である。五大連池では、14の火山から噴出したアルカリ玄武岩の溶岩流が約600km²の範囲を被っている。火山の配列には顕著な方向性が見られ（写真2）、主に北東-南西系の深部断裂に沿ってマグマが上昇・噴火したと考えられる。最も新しい老黒山（Laoheishan）および火燒山（Huoshaooshan）火山の噴火は、1719-1721年に生じた。この時の溶岩流（表紙参照）が付近を流れる白（Bai）河をせき止めて、互いにつながった五つの湖＝五大連池ができた。（地質調査所 鉱物資源部 吳 澄宇・佐藤 興平）*現在：中国地質科学院 鉅床地質研究所

2. 五大連池火山群の地質概略図。

中華人民共和国地質部地質博物館（1979）『中国五大連池火山』/上海科学技术出版社より。詳しくはこの文献を参照されたい。





3. 老黒山火山のアア溶岩から北東に火焼山火山を見る。このような溶岩は、中国でも岩海とよばれる。



4. (上) 老黒山火山の縄状溶岩。



5. (左) 火焼山火山の火山弾。